

現在の高田駅前郵便局には
雁木型のアーケードがある



レコード店の設定で使われた大山薬局。この
店の前で小林さち子が歌う。当日は営業しな
がらの撮影だったという＝上越市本町1



風景、人情、世相…

皆の心の中に今も

第47作「拝啓車寅次郎様」

この映画には多くの地元エキス
トラが参加している。先述の大山
薬局で代表取締役を務める大山有
さん(37)もその一人だ。当時は中
学生で、友人を誘って一緒に参加
した。レコード店回りの営業をす
る歌手を遠巻きに見る学校帰りの
生徒、という設定で演技してほし
いとスタッフから指示を受けた。

「小林幸子さんはとにかくすて
きな方で、その場にいた人たちが
全員ファンになるほどでした」。

撮影には半日以上を費やした。「わ
ずか数分のシーンのために、あ
んなに時間をかけて撮影するのかと
子どもながらに驚きました」



その後、寅さんは高田駅前郵便
局から故郷柴又にはがきを送る。
そのときに、偶然先ほどの歌姫と
再会し、「あなたは人相がいいか
ら、きつと大成するよ」と励ます。
ロケは実際の郵便局で行われた
が、現在の局舎は建て替えられた



郵便局前での撮影の一
コマ。籠を担いでい
るのは飯吉幸子さん



池上隆一さん

郵便局を後にした寅さんは、籠
を担いで歩くおばあさんとぶつ
かる。その渥美清と絡む役で出演し
たのが、飯吉さんの義母の飯吉幸
子さん(75)だ。ロケバスに案内さ
れて衣装合わせをしたり、プロに
メイクしてもらったりして、「す

っかり別人になりました」。その
おかげで鈴なりの聴衆も気になる
ことなく演技できた。「何度も撮
り直しになりましたが、監督はと
ても優しく接してくださいまし
たよ」



その2人の絡みの向こうでバス
に乗ろうとする男性役で出演した
のが池上隆一さん(59)だ。路線バ
スが来るタイミングに合わせての
撮影は大変だっただろうと思いき
や、「あれは、わざわざ撮影用に走
らせたものなんですよ」とのこと。
待ち時間のときの渥美清は寅さ
んとは印象が大きく違った。「何
だか怖い感じで…。その後テレビ
で病氣のことを知って、そうだっ
たのかと思いました」。この2年
後、渥美は68年の生涯を終える。

今回の取材を通して感じたの
は、寅さんは今でも皆の心の中で
生きているということ。「男はつら
いよ」シリーズは風景、人情、世相、
あらゆるものが日本人の心にしっ
くりくる、まさに「国民的映画」な
のだ。その作品に新潟の人や風景
が刻まれたこと、そして当時を知
る人から話を聞き記録に残せたこ
とは、うれしい限りである。

第47作「拝啓車寅次郎様」

公開日 1994年12月23日

監督 山田洋次

出演 渥美清／倍賞千恵子／

下條正巳／三崎千恵子／前田

吟／吉岡秀隆／太宰久雄／佐

藤蛾次郎

マドンナ かたせ梨乃

ゲスト 牧瀬里穂／小林幸子